

持続可能な社会教育関係団体の活性化
(提言)

～あきる野市民の豊かな人生のために～

令和8年4月

第15期あきる野市社会教育委員の会議

目 次

【1】はじめに	1
【2】提言に向けての調査	2
【3】市民アンケート調査結果	3
1 アンケートの概要	
2 アンケートの本文と回答の状況	
【4】「持続可能な社会教育関係団体の活性化」に向けての提言	10
1 団体に向けたサポート	
2 個人に向けたサポート	
【5】おわりに	13

【1】はじめに

第15期社会教育委員の会議では、市内の社会教育の発展を図るため、定期的に会議を開き調査・研究を行っております。

その中で、近年市内の社会教育関係団体において活動の縮小や団体数の減少が課題となっています。さらに、団体構成員の高齢化が進み、世代を超えた活動の継承が十分に行われていない現状が見受けられます。このような状況において、社会教育関係団体を存続・発展させるためには、世代を問わず多くの市民が積極的に活動へ参加できる仕組みと共に多様性が求められている観点からも、硬直化せずに地域の現状に即した新しいアプローチが求められています。

本提言の作成に際しては、市内で活動されている社会教育関係団体に対し、アンケート調査を実施し、そこから見えた課題について、自治体がどのような施策を進めていくべきか議論を重ねてまいりました。

社会教育関係団体の活性化は、地域における多様な学びの場の拡大を促進するとともに、市民間の交流を深めることで地域全体の結束力を強める重要な役割を担っていると考えます。地域社会の「ウェルビーイング」、すなわち、心身ともに健やかで幸福な状態の実現を目指すため、社会教育関係団体のサポートは不可欠だと考え、提言いたします。

あきる野市社会教育委員の会議
議長 私市 耕治



【2】提言に向けての調査

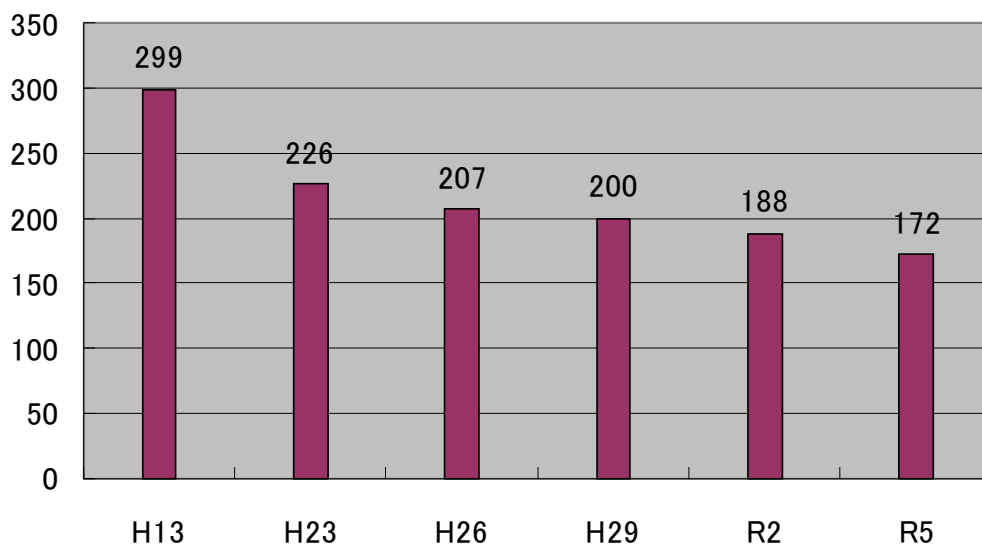
1 調査の背景

本市の社会教育関係団体の登録数は、平成13年時点では約300団体の登録がありましたが、現在その登録団体数は約170団体と数を減らしております。

団体数の減少の背景としては、少子高齢化に伴う登録者の減少や後継者不足、またコロナ禍に伴う解散などが挙げられます。

社会教育関係団体の活動は、孤立の防止や生きがい・学びの場づくり、地域の活性化など、大切な役割を担っていることから、社会教育関係団体の活動の活性化に向け、行政がどのようなサポートを行うべきか検討するため、まずは、各団体が抱える課題を把握すべきだと考え、アンケート調査を行いました。

社会教育関係団体 登録数の推移



2 調査の目的

会議では、社会教育関係団体の活性化を図るためには、団体だけではなく、現在サークル活動をしていない市民の要望についても把握することが必要だと考えました。

会員不足に悩む団体と、事情によりサークル活動が出来ない市民、それぞれの要望を繋げることで、課題解決の糸口になると予想し、「団体宛て」と「市民宛て」の2種類のアンケート調査を実施しました。

【3】市民アンケート調査結果

1 アンケートの概要

(1) 調査設計

ア 調査地域 あきる野市内全域

イ 調査対象

(ア) 社会教育関係団体 173団体

(イ) 個人宛て あきる野市在住者

ウ 調査方法

(ア) 社会教育関係団体宛て

アンケート送付

(イ) 個人宛て

広報、HP、メール配信、社会教育施設等での配架、各種事業・学校での配付

エ 回収方法

(ア) 社会教育関係団体宛て

返信用封筒での郵送、電子回答

(イ) 個人宛て

電子回答

オ 調査期間

(ア) 社会教育関係団体宛て

令和7年6月2日～令和7年7月18日

(イ) 個人宛て

令和7年6月2日～令和7年7月31日

(2) 回答数

ア 社会教育関係団体宛て

138団体（回答率79.76%）

イ 個人宛て

311人

2 アンケートの内容と回答の状況

(1) 社会教育関係団体宛てアンケート

ア 貴団体の活動について教えてください。（該当するものについて、○をしてください）

(ア) 活動頻度

週5回以上 ・ 週3～4回 ・ 週1～2回 ・ 不定期（年 回）

(イ) 主な活動時間

終日 ・ 午前中（9時～12時） ・ 午後（12時～17時） ・

夜間（17時～） ・ その時の都合で決まっていない

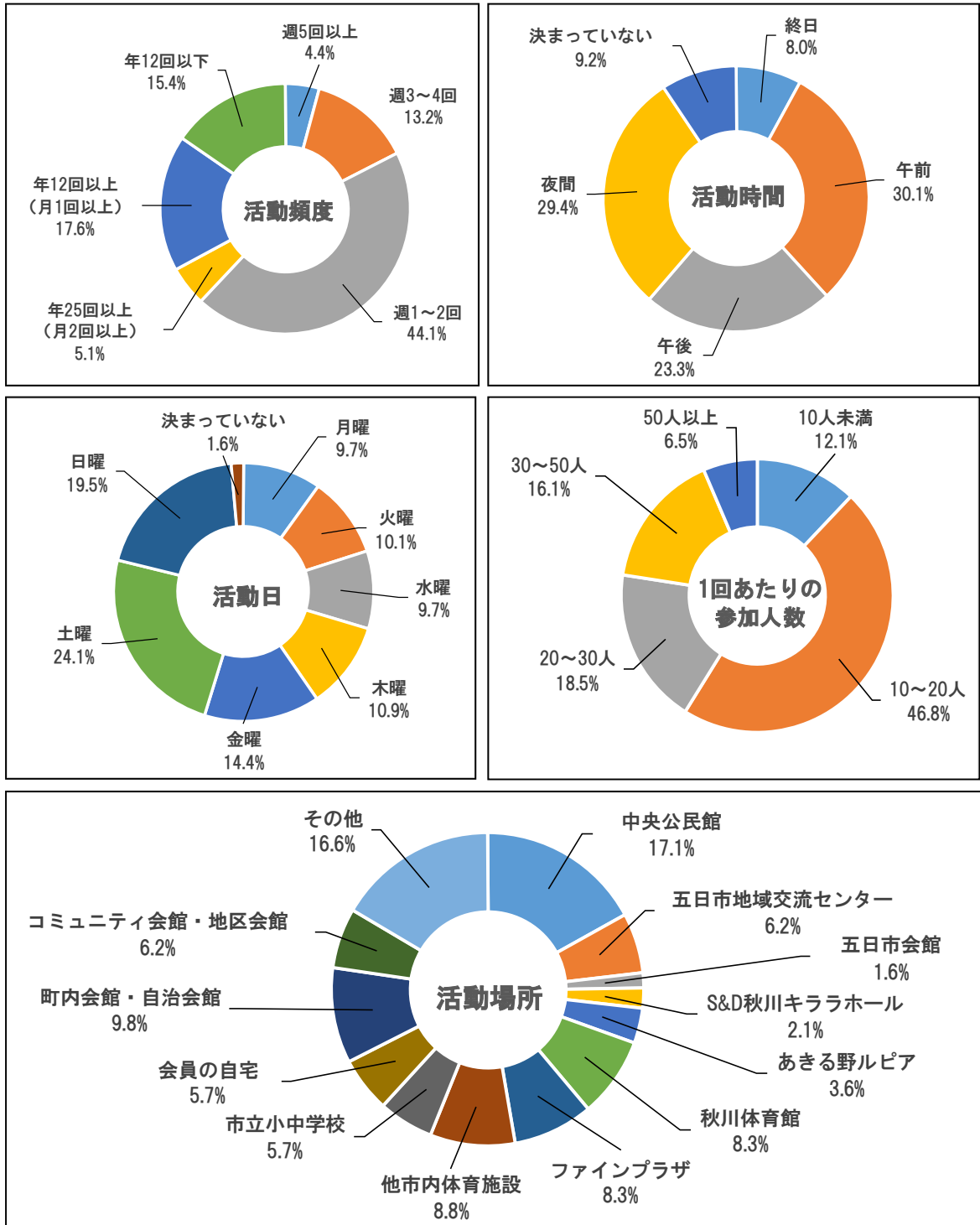
(ウ) 主な活動日（複数回答可）

月曜日・火曜日・水曜日・木曜日・金曜日・土曜日・日曜日

(エ) 主な活動場所（複数回答可）

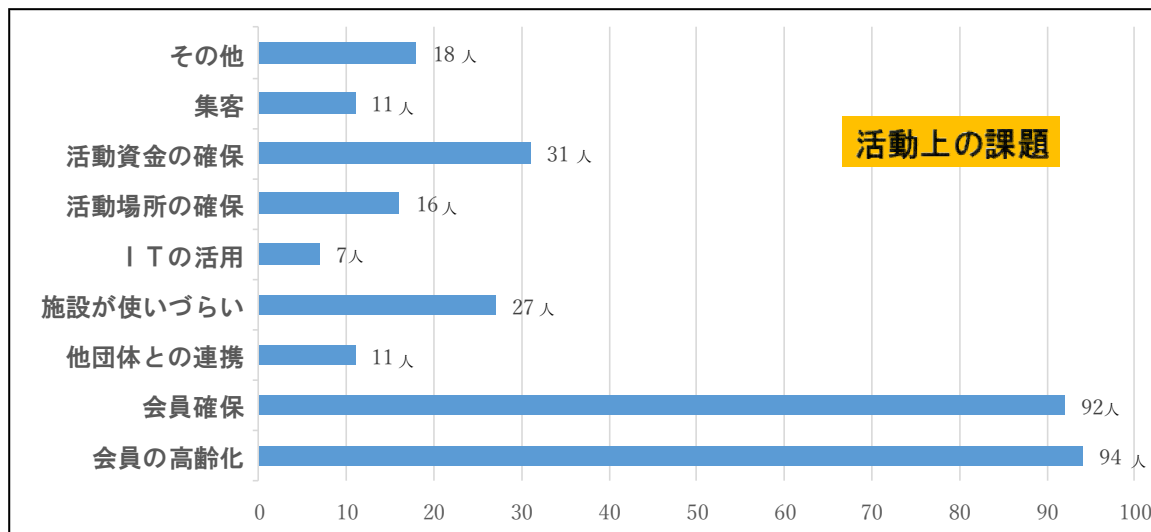
中央公民館 ・ 五日市地域交流センター ・ 五日市会館 ・ 児童館 ・ S&D秋川キララホール ・ あきる野ルピア ・ 体育施設・ 市立小中学校 ・ 会員の自宅 ・ その他

(オ) 1回あたりの参加者数



イ 活動していく上での課題を教えてください。(複数回答可)

- ・ 会員の高齢化 ・ 会員確保 ・ 他団体との連携 ・ 施設が使いづらい
- ・ ITの活用 (Wi-Fi、オンライン会議等) ・ 活動場所の確保 ・ 活動資金の確保
- ・ 集客 ・ その他



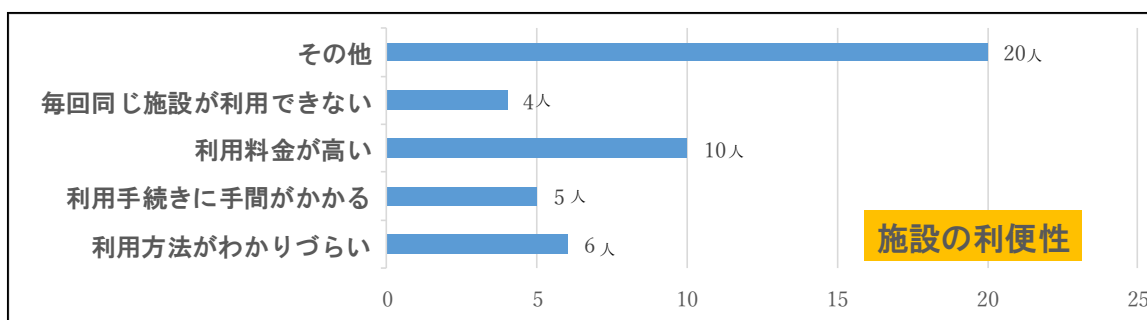
その他の回答のうち主な内容

- ・ 時代の変遷とともに子どもたちへの接し方が難しくなっている。
- ・ 子どもの会員確保が難しい。
- ・ 後継者不足
- ・ 指導者の時間確保
- ・ 駐車場不足

ウ (設問イで「施設が使いづらい」と回答いただいた方のみお答えください)

「施設が使いづらい」ことの原因について教えてください。(複数回答可)

- ・ 利用方法がわかりづらい ・ 利用手続きに手間がかかる ・ 利用料金が高い
- ・ 毎回同じ施設が利用できない ・ その他

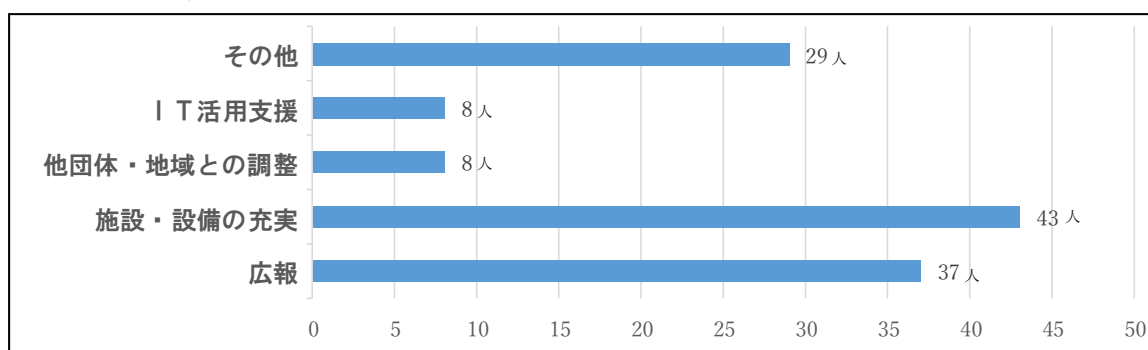


その他の回答のうち主な内容

- ・ 電話等での予約が取りにくい。
- ・ 予約をオンラインにしてほしい。
- ・ 備品の老朽化及び不足
- ・ 音を出してよい施設が少ない。

エ 活動に当たり、行政に対し支援を求めることがありましたら教えてください。(複数回答可)

- ・ 広報 ・ 施設・設備の充実 ・ 他団体・地域との調整 ・ IT活用支援
- ・ その他



その他の回答のうち主な内容

- ・ 本当に必要としている方に活動を紹介してほしい。
- ・ 音出し可能な施設の使用料を支援
- ・ ネットで施設の予約ができるとよい。
- ・ 冷暖房設備の完備
- ・ こども、青少年などを巻き込んだイベントを開催してほしい。

オ その他、市の生涯学習支援について、ご意見等ございましたらお聞かせください。

主な回答内容

- ・ 市全体の活動一覧表がネットで見られたら利用しやすい。
- ・ 登録更新の手続きを簡素化してほしい。
- ・ 市報に年3回くらい掲載をお願いしたい(会員確保のため)。
- ・ 10名以上の団体でなくても活動できるよう枠の撤廃を考えてほしい。
- ・ 研修室等にフリーWi-Fiがあるとよい。

(2) 個人宛てアンケート

ア 年齢を教えてください。

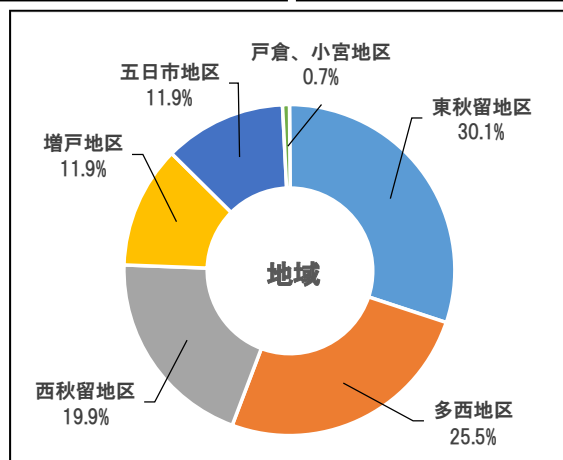
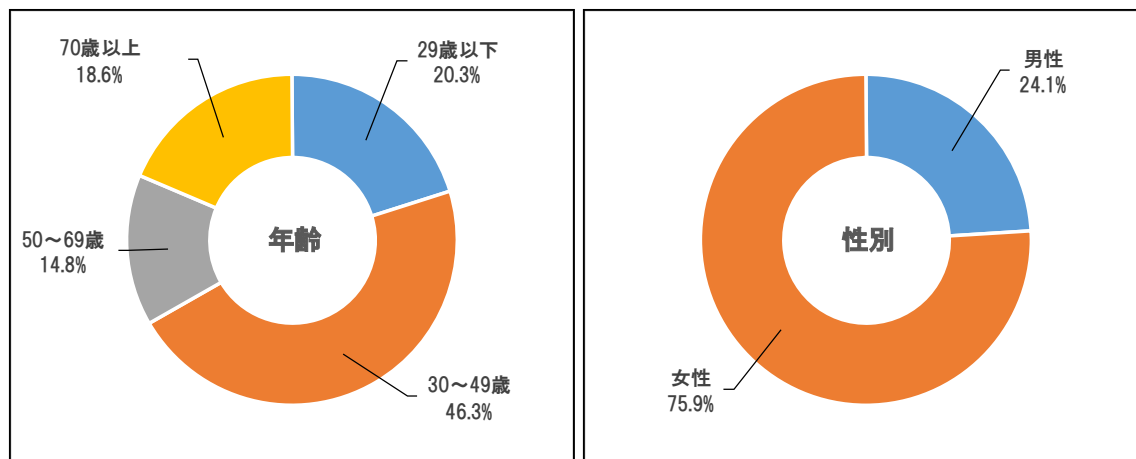
29歳以下 ・ 30～49歳 ・ 50～69歳 ・ 70歳以上

イ 性別を教えてください。

男性 ・ 女性 ・ 回答しない

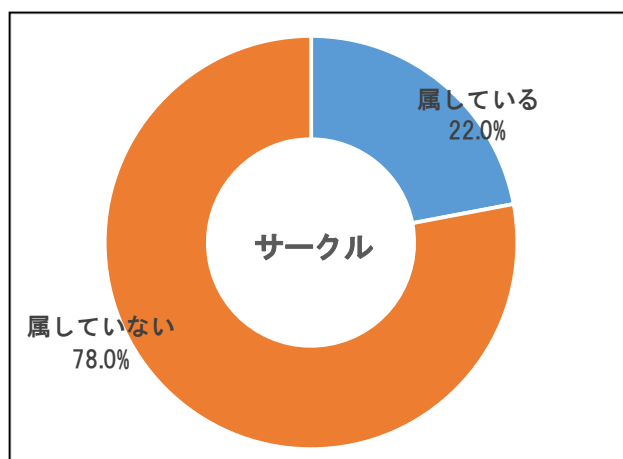
ウ お住まいの地域を教えてください。

東秋留地区 ・ 多西地区 ・ 西秋留地区 ・ 増戸地区 ・ 五日市地区 ・ 戸倉、小宮地区

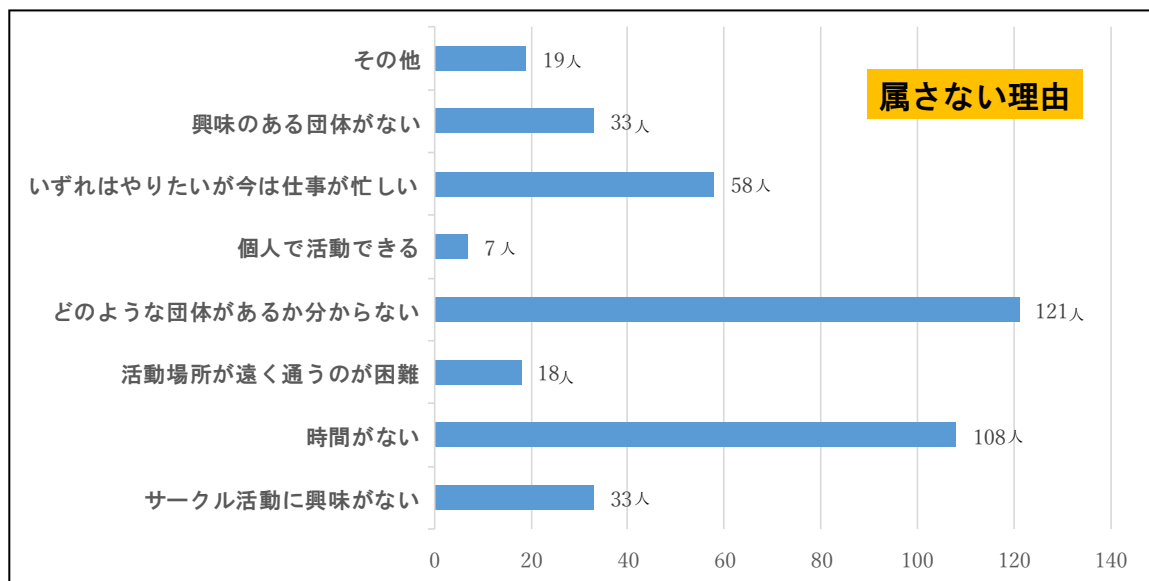


エ あなたは現在、あきる野市のサークル（団体）に属していますか。

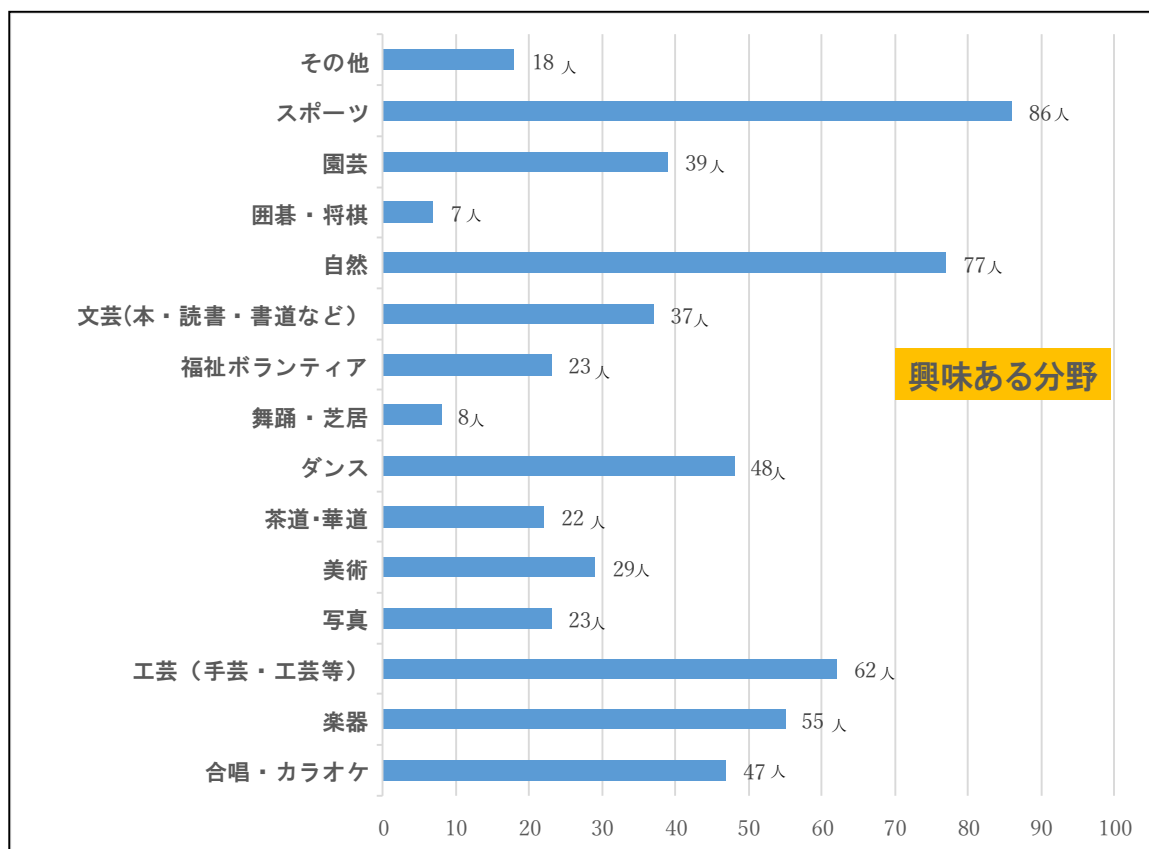
属している ・ 属していない



キ (エで属していないと答えた方のみ) 属していない理由をお教えてください。



ク あなたが新たにサークルに所属する場合、興味がある分野を教えてください。



その他の回答のうち主な内容

- ・和太鼓
- ・語学
- ・話し方
- ・詩吟
- ・手話
- ・ボードゲーム
- ・保育
- ・伝統芸能
- ・楽しく運動不足を解消できるようなもの

ケ その他、市の生涯学習支援について、ご意見等ございましたら、ご自由にご入力ください。

主な回答内容

- ・サークルの情報がほしい。
- ・子育て中でも活動できるような環境がほしい。
- ・子どもと参加できる雰囲気的活動に参加したい。
- ・多様な場所と時間で活動を行ってほしい。
- ・生涯学習情報の収集・発信の強化
- ・フルタイムで働いているので、土日の講座も増やしてほしい。
- ・会の活動内容の紹介や会員募集など参加しやすい状況を作ってほしい。
- ・情報が担当部署ごとには出てくるが、市民に分かりやすくまとまっていない。市報をあちこち見ないと探せない。
- ・子どものスポーツ団体の募集は体育館に貼ってあるが、大人の募集はそういう場所がないし、調べるすべがない。

【4】 「持続可能な社会教育関係団体の活性化」に向けての提言

あきる野市における社会教育関係団体の持続的な活性化を実現するためには、行政が制度設計と予算措置を伴う具体的な取組を進めることが不可欠です。

アンケート結果から見えてくる本市の社会教育団体が抱える大きな課題は、会員の確保と会員の高齢化です。人口減少と社会の少子高齢化が進み、地域活動の担い手である若年層の社会教育団体への参加が少なくなるとともに、デジタル技術の発展と高度化により広報活動に困難さがある団体では、活動内容の周知が難しく、会員募集も十分にできていません。会員確保が十分でないことは、運営を継続する後継者のいない団体が増えることにつながっています。

今後、本市の交通アクセスの不便さから、現会員である高齢者の参加機会が限定されていくことで、さらに会員数は減少していくことが予想されます。

さらに、あきる野市でも公共施設の再編成が進みつつありますが、活動場所の不足や交通アクセス、既存施設や備品の老朽化や設備の不十分さ、施設使用料の負担など、社会教育団体の活動を支えるハード面が充実していないことも、課題として挙げられます。

また、個人宛てのアンケート結果から見えてくる課題は、団体の情報不足や子育て世代など多様な学び手に寄り添う活動支援です。団体そのものへの支援だけでなく、そこに関わる「個人」の学び・活動・参加意欲を継続的に支える環境整備が欠かせません。

社会教育関係団体は、市民の学びと交流を支える基盤であり、地域の文化的アイデンティティを守る存在です。課題解決に向けて、我々社会教育委員は、「社会教育関係団体」と「個人」の2つの側面からサポートを行うべきと考え、以下の通り提言します。

1 団体に向けたサポート

(1) 会員確保・世代交代の促進

ア 学校教育との連携強化

- ・地域活動を授業や部活動の一環として体験できる仕組みを構築
- ・若者が社会教育活動に参加することを学習単位や就職活動で評価できる制度の導入

イ 世代間の相互理解を深める場の提供

- ・高齢者の経験や知識を若い世代に伝える「世代間交流拠点」を設置

(2) 広報活動の強化

- ・市公式の SNS や動画配信を通じた団体の情報発信
- ・市民自身が活動を取材、発信する「市民レポーター制度」の導入
- ・伝統芸能をデジタルアーカイブ化し、教育現場や観光資源として活用

(3) 施設の再編・利便性向上

ア 施設の再編

- ・老朽化した社会教育施設を文化施設等と結合し、複合的に活用できる拠点として再編

イ 利便性向上

- ・市内循環バスやデマンド交通を活用し、施設へのアクセスを改善
- ・学生や高齢者への施設使用料割引制度を導入
- ・Wi-Fi やオンライン配信設備の導入による活動の多様化を支援

(4) 地域コミュニティの再生

- ・移住者の地域活動への参入を促す「ウェルカムプログラム」の企画
- ・高齢者や障がい者も参加できる多世代共生型イベントの企画

(5) 生きがい・やりがいの創出

- ・社会教育活動に貢献した個人や団体を表彰する制度の構築
- ・市民が持つ趣味や特技を生かせる「市民講師制度」の拡充
- ・活動参加に応じてポイントを付与し、地域商店で利用できる仕組みの構築

これらの施策を総合的に推進するために、行政・団体・市民代表が参加する「社会教育推進協議会」を設置し、施策の協議と評価を行う体制を整えることが不可欠です。施設再編や広報強化に必要な予算を確保するとともに、企業や大学との官民連携を進め、人材や資金を補完することで、持続可能な社会教育団体の活性化を実現することができます。

2 個人に向けたサポート

(1) 多様な学び手に寄り添う参加支援

ア 学びの入口を広げる情報提供の充実

- ・地域行事と連携した年齢やライフステージ別に分かりやすい案内を提供
- ・誰でも参加しやすい「入門講座」や「体験型プログラム」の拡充
- ・参加者の興味関心に合った活動・団体を紹介する“学びのコンシェルジュ”機能を設置

イ 生活状況に合わせた参加形態の柔軟化

- ・オンライン、対面を組み合わせたハイブリッド参加
- ・子ども連れや介護のある家庭でも参加できる配慮
- ・障がいのある方への参加サポート（要約筆記・手話・バリアフリー会場など）

(2) 個人の成長を支える学びの継続支援

ア 個人の学習計画づくりの支援

- ・地域の学習相談員による個別相談
- ・「学習履歴ポートフォリオ」を活用し成長を見える化
- ・学び直し支援（生涯学習）との連携

イ スキルアップ・資格取得を支える講座の充実

- ・ボランティアコーディネーター、子ども支援、スポーツ指導者などの認定講座を用意
- ・活動経験を資格化・記録化する仕組みの整備



(3) 支える人（ボランティア）の負担軽減とモチベーション維持

ア 安心して活動できる環境整備

- ・活動保険の加入促進
- ・交通費や実費負担への一定の補助
- ・ボランティアの役割が偏らないためのコーディネート支援

イ 活動意欲を高める評価・承認の仕組み

- ・活動実績を記録し、表彰や認定につなげる制度
- ・活動者同士が交流し、悩みを共有できる「交流会」「振り返り会」の開催
- ・学校・地域行事での紹介や感謝状の授与など、社会的な承認機会の確保

(4) 個人が地域の一員として活躍できる場づくり

ア 地域課題解決に向けた参加機会の創出

- ・防災、環境、福祉、スポーツ、文化など多様なプロジェクトへ参加できる仕組み
- ・デフリンピック応援のような、子どもから大人まで参加できる協働イベントの拡大

イ 学校との連携による世代間交流・学び合い

- ・子どもと大人が協力する活動（学習支援、地域イベント、文化活動）を拡充
- ・シニアの経験を学校へ還元し、子どもたちの学びに生かすプログラムの整備

個人の学びと参加を支えることは、社会教育関係団体の活性化そのものにつながります。教育委員会におかれましては、地域の誰もが自分らしく学び、関わり、活躍できる仕組みを整え、持続可能な社会教育の基盤づくりを積極的に推進していただきますよう、提言いたします。

【5】 おわりに

本提言書の作成に当たり、アンケートに協力していただきました社会教育関係団体の皆様、そして地域の皆様に深く感謝申し上げます。皆様から寄せられたご意見やご提案は、市の社会教育を見直す上で、非常に重要なものとなり、提言の内容に反映させることができました。

本提言が、社会教育関係団体の活動をより活性化させ、地域社会全体の発展に寄与する礎となることを願っております。そして、この取組を通じ、地域の学びや交流が広がり、すべての市民が心身ともに豊かさを感じられる「ウェルビーイング」を実現する社会を築くことができますよう、我々社会教育委員も、引き続き調査・研究して参ります。



第15期あきる野市社会教育委員の会議 提言書の作成経過

開催日	会議名	会場	内容
令和6年 5月28日	令和6年度 第1回定例会	市役所会議室	・研究テーマについて意見交換
6月27日	令和6年度 第2回定例会	中央公民館	・研究テーマについて意見交換
10月17日	令和6年度 第4回定例会	中央公民館	・研究テーマについて意見交換
12月24日	令和6年度 第5回定例会	市役所会議室	・研究テーマについて意見交換 ・アンケート調査について意見交換
令和7年 2月27日	令和6年度 第6回定例会	市役所会議室	・研究テーマについて意見交換 ・アンケート調査について意見交換
5月28日	令和7年度 第1回定例会	中央公民館	・研究テーマについて意見交換 ・アンケート調査について意見交換
6月26日	令和7年度 第2回定例会	市役所会議室	・アンケート調査について意見交換
8月21日	令和7年度 第3回定例会	市役所会議室	・アンケート結果について意見交換
10月23日	令和7年度 第4回定例会	市役所会議室	・アンケート結果について意見交換
12月23日	令和7年度 第5回定例会	市役所会議室	・提言の内容について ・構成について
令和8年 2月26日	令和7年度 第6回定例会	市役所会議室	・構成について

第15期あきる野市社会教育委員名簿

氏 名	構 成 の 範 囲
齋藤 真	学校教育関係者 任期：令和6年5月1日～令和7年3月31日
長谷川 真人	学校教育関係者 任期：令和6年5月1日～令和7年3月31日
縦山 雄三	学校教育関係者 任期：令和7年4月1日～令和8年4月30日
多田 春美	学校教育関係者 任期：令和7年4月1日～令和8年4月30日
古城 正子	社会教育関係者
佐野 正克	社会教育関係者
白檮山 町子	社会教育関係者
海老沢 治美	家庭教育の向上に資する活動を行う者
廣田 江里子	学識経験のある者
三瓶 清憲	学識経験のある者
私市 耕治	学識経験のある者
森本 久仁子	学識経験のある者

任 期：令和6年5月1日～令和8年4月30日

持続可能な社会教育関係団体の活性化
～あきる野市民の豊かな人生のために～

令和8年4月
第15期あきる野市社会教育委員の会議